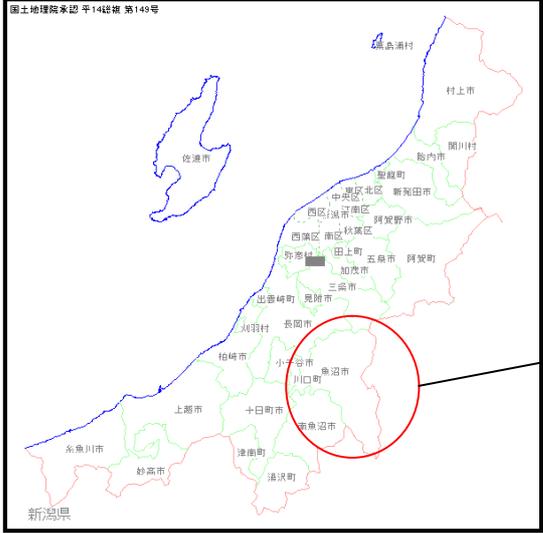


平成21年度 「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	限界集落の埋もれた資源の再利用による地域の活性化
対象地域	新潟県魚沼市福山新田
対象地域の概要	  <p>【位置図】新潟県魚沼市福山新田</p>   <p>【耕作放棄された田んぼ】</p> <p>【廃校になった小学校】</p>
提案内容の概要	<p>地域住民と協働しながら里山や耕作放棄地等の地域資源を活用し、集落と都市住民との交流機会を拡大する。また長期的な視点から、交流機会を増やししながら集落へ移住・定住するためのきっかけとする。現時点ですでに、二地域居住へ向けた動きもみられ、本活動はそのまま子ども達の環境学習の場ともなっていく。</p>
提案する活動の内容 (1) 地域の課題	<p>当該地域は、少子高齢化と豪雪地として市内でも孤立した場所にあることなどから若者の離村が進み、その結果、平成15年に福山小学校が廃校となり、集落経済の中心である農業の担い手も減少し、耕作放棄地が増加の一途をたどることとなった。また、森林についても住民の山離れが進むことで森が荒廃している。</p> <p>そこで、平成20年度「新たな公」事業で地域資源の再利用を目的に行った、新たな農林業体験の場としての耕作放棄地の回復や、集落の大部分を占める山林の境界調査と部分的な山林整備を住民と協働で行ったことで集落との連携体制が構築され、住民の意識にも変化が見られてきた。しかし、限界化集落では農業の担い手育成、森林整備・保全について持続可能な仕組みづくりを構築することが大きな課題として残った。</p>
(2) 活動内容の案	<p>活動①： 里山の林道整備</p> <p>内容：</p> <p>本活動を通して次の二つを行っていく。一つ目が、地域資源の利活用と、それに伴う収入の場の確保により、移住・定住者に自立支援の仕組みを作ること。二つ目は林道を利用した里山の持続的な管理を、地域外の住民と地元住民とで協働することにより、相互の住民に発見・再発見をもたらす交流の場を作ることである。</p> <p>本活動は前年度までで、想定地域の約60%の山林を調査し、本格的に整備するための準備活動も完</p>

了させてきた。今年度は引き続き残り40%の調査を行い、本格的な道の整備のために除間伐と下草刈りを実施する。活動の実施期間は当該地域が冬期に積雪するため、5月～11月とする。本活動で整備していく林道は、古くから地域住民が山菜とりなどの生活道として使われていたが、現在は使用されることもなく、道筋も不明な部分が多い。また、地域の共有林が整備範囲の多くを占めているため、復興するには調査から整備まで地元住民と連携・協働していくことが前提となる。そこで、この林道については里山の景観や生態系バランスを維持していくためにも、歩いて通れる程度の広さで、かつ昔の道を復興させるという段階に留めて行う。

活動② : 里山の整備と収入の場づくりの検証

内容 :

【活動①】の林道は長年、人が入らなくなり荒廃している山林で、集落生活や都市農村交流を充実させる素材として持続的に利用していくためには、日常的に人が出入りして、下草刈りなどの管理を継続的に実施していかなければならない。また、この状況は耕作放棄地についても同様であり、前年度の事業で50aの耕作放棄の回復を実施したが、今後担い手がいなければまた荒廃してしまうことになる。しかし現在、福山新田の農林業は担い手不足の状態であり、今後は新たな担い手の確保も考慮して対策を立てていく必要がある。

そこで、昨年調査を実施した森林と回復させた耕作放棄地を地域外に住む農林業や農村に興味を持つ人々を年間約10組程度公募し、地域住民と協働で活動組織を結成し、持続的な管理体制を構築する。主な活動は里山の持続可能な管理実現のための森林整備や、里山の恵みを利用した山菜・養蜂・キノコ栽培・薪炭作り・木工、復旧した休耕地での稲作などである。本活動は全般にわたり地元住民との連携・協働が不可欠であり、活動は年間を通じて行い、夏期は里山や田んぼを利用した農林作業や加工品作り、そして冬期は当NPOが借り受けている旧福山小学校（魚沼伝習館 福山体験工房）での加工品作りや地域間交流を行っていく。

この活動においては、安全管理対策として、当NPOスタッフが活動時の安全管理を行い、地域住民（地元指導者）と協議のうえ、森林内での安全確保と環境保全のためのルールを作成する。これらの活動は地域外より農村の暮らしや農林業に興味を持つ人を限界化集落の担い手不足による里山の荒廃、農林業の衰退が進む地域に継続的に来訪する仕組みを作ることで、地域住民との交流拡大による人間関係の構築と持続可能な森林整備や農業の担い手育成を可能にし、移住定住希望者の一番の不安要素である収入の確保に森林資源を利活用できるよう将来的には農林作業技術の習得を目的とした自立支援研修も行っていく。

活動③ : 情操教育の場としての当該地の利用

内容 :

当該地においてNPOで行う野外教育のフィールドとしても利用していくで、里山や田んぼには、人と自然のかかわり方が強く映しだされていることを学ぶ。

そのために本事業では、自然と人が関わってきた足跡をたどり体験することで、里山にある資源を利用した遊びや、里山での自然学習、田んぼでの農業体験を通して、子供は自然の中で工夫しながら力いっぱい過ごしていくことや、食べ物は命であること、そして自然に生きる生命の環を学ぶことができ、こうした活動は、現在の学校教育で不足しがちな「情操教育」につながり、心の成長が促されていくこととなる。

上記について本活動では具体的に次のような活動を行っていく。

- ・里山→山菜とり、鎌を使った下草刈、キノコ栽培、木工教室、ネイチャーゲーム、昆虫採集 など
- ・田んぼ→農作業体験、わら細工 など

以上のように農林作業やキノコ栽培、伝統工芸などについて、準備段階から地域住民を指導者としながら活動を実施することで、地域・世代間交流が促進され、地域の魅力の再発見へとつながる。

応募団体名	NPO法人 野外教育学修センター 魚沼伝習館
リンク	
部局／担当者名	坂本（淳）
連絡先	TEL/FAX 025-777-5042 E-mail info@uonuma-denshukan.com

	URL http://www.uonuma-denshukan.com
推薦市町村名	新潟県魚沼市